

学生部会 JSHGM-JPCA 合同企画セッション

どう向き合うか、総合診療の道 ～「迷い」と「惹かれ」の天秤に揺られて～

企画学生：代表：宮澤 正咲（富山大学 5年）
澤田 晋介（富山大学 6年）
小嵐 将悟（愛媛大学 5年）
地場 凜々子（筑波大学 5年）
中田 優紀（大阪医科薬科大学 5年）
齋藤 光莉（岡山大学 4年）
笹井 香苗（防衛医科大学校 4年）
古幡 保之（名古屋市立大学 4年）
山口 翠月（産業医科大学 4年）
結城 舞（筑波大学 4年）
渡辺 芽衣（東京女子医科大学 4年）
石井 菜々子（順天堂大学 3年）
木邨 颯汰（京都府立医科大学 3年）
小倉 千鶴（富山大学 2年）

企画責任：日本病院総合診療医学会 学生部会
志水 太郎（獨協医科大学 総合診療医学）
天野 雅之（南奈良総合医療センター 総合診療科・教育研修センター）
大塚 勇輝（岡山大学病院 総合内科・総合診療科）
貝田 航（よしき往診クリニック）
安本 有佑（板橋中央総合病院 救急総合診療科）

開催協力：日本病院総合診療医学会（若手医師部会）
日本プライマリ・ケア連合学会
（学生若手医療者支援委員会・専門医部会若手医師支援部門病院総合医チーム）
日本地域医療学会

ゲストスピーカー：天野 雅之（南奈良総合医療センター 総合診療科・教育研修センター）
鈴木 富雄（大阪医科薬科大学総合診療医学教室）
西脇 健太郎（公益社団法人地域医療振興協会 いびがわ診療所）

パネリスト：宮澤 正咲（富山大学 5年）
小嵐 将悟（愛媛大学 5年）
地場 凜々子（筑波大学 5年）

中田 優紀 (大阪医科薬科大学 5 年)
齋藤 光莉 (岡山大学 4 年)
笹井 香苗 (防衛医科大学校 4 年)
結城 舞 (筑波大学 4 年)
渡辺 芽衣 (東京女子医科大学 4 年)
石井 菜々子 (順天堂大学 3 年)
木邨 颯汰 (京都府立医科大学 3 年)
小倉 千鶴 (富山大学 2 年)

アドバイザー：西村 涼 (道北勤医協一条通病院 内科・総合診療科)
濱田 航一郎 (長崎大学病院 総合診療科)
山本 幸近 (飯塚病院・顕田病院 総合診療科)

本企画は、総合診療に関心を抱きながらも進路として決断しきれない学生の葛藤に向き合い、進路選択に内在する「迷い」と「惹かれ」を構造的に捉え直すことを目的とする、学生企画である。前回の9月大会では、総合診療に関心を有しつつ進路決定に踏み切れない学生を対象に調査を行い、彼らが抱く漠然とした不安や違和感、いわば“モヤモヤ”の実態を言語化した。その結果、総合診療の幅広さや将来像の見えにくさが進路選択における葛藤の原因となる一方で、それらが必ずしも否定的要素に限られない可能性が示唆された。

本回では、この「モヤモヤ」を一方の皿、学生が総合診療に惹かれる理由や憧れをもう一方の皿とした“天秤”の比喩を用いて、進路選択の過程を再考する。学生は往々にして、不十分な情報や断片的なイメージのまま天秤を傾げざるを得ない状況に置かれ、その結果、「惹かれる気持ち」と「言語化できない不安」という二つの要素が十分に整理されないまま納得感の乏しい選択に至っている可能性がある。本セッションでは、前回扱った「モヤモヤ」という一方の皿の上に立ったうえで、もう一方の要素である「総合診療の魅力」に改めて焦点を当てる。

前半では、9月回で明らかになった学生が抱くイメージや不安を提示し、学生の率直な問いを起点として、異なる立場・環境で総合診療に携わる教育者・臨床医との対話を行う。学生の抱く総合診療の「幅の広さ」や「捉えどころのなさ」が、視点を変えることで価値として再解釈されうる可能性を見出し、学生のデータと現場の語りを往復させながら、その多様性が学生の認識の形成や変容に与える影響を分析検討する。

後半のディスカッションでは、学生自身の迷いや憧れを整理し、納得感をもって進路選択に向き合うために、どのような情報や関わりが求められているのかを参加者と共に考える。学生が本気で自身と向き合い思考を言語化できる場を創出し、学生・教育者・臨床医それぞれが互いの立場や認識に触れながら、総合診療の魅力と進路選択の在り方を再考する機会としたい。